

診療情報管理室この一年

診療情報管理室 昆 貴行

人事異動

平成19年は室長である、川村診療部長の退職・酒井診療部長の就任で今年の当室の運営が開始された。

業務

今年の業務の振り返りとしてはOSとドライブファイル間の不調と考えられる10分間のシステム停止に加え、機器の老朽化によるシステムダウンを経験した。またPACSシステムを導入後、推奨OSから外れたクライアントを導入したためによるものかネットワーク上の高負荷状態が起因したものが判断はしかねるがクライアントの動作が安定しなかった。また上記システムの導入に伴いシステム構成が複雑化し管理工数が増加したしたことによる、業務量の増加が発生した。

今年は通常業務に加えて主に診療部、看護部、医事科と連携してDPC調査協力病院としての厚生労働省への様式1作成を行った。今回の調査においては入院に関連した月に500件以上の高精度なデータを半年間継続して提出しなければならずかなりの労力を要した。

学会活動等

平成19年は学会・研究会での発表は3題となりました。

第33回診療録管理学会

当院医療圏における患者動向調査

常勤医撤退による影響

第46回自治体病院学会

当院医療圏における産婦人科医撤退による影響

第111回北海道診療録管理研究会

当院医療圏における患者動向調査

教育活動

また本年度は道内専門学校2校からの3名の実習生の受け入れを行った。

また例年通り北海道医学技術専門学校にて「分類法実習」の講義を14回実施した。

来年度の業務としては継続してDPC調査協力病院として、厚生労働省へのデータの提出を実施する。オーダリングシステムの更新を見越した次期院内総合情報システムの検討、またこれを踏まえた上で救急外来棟の新設に伴ったシステムおよびネットワーク構成の変更を実施していきたいと考える。

現行の紙媒体による記録から電子媒体へと記録媒体が変化しつつある現在において、2世代の媒体間をつなぐ業務の導入等を中心に来年の業務を展開していきたいと考える。